

～福井県少年剣道強化錬成大会開催における
新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン～

【錬成会実施に当たっての基本的な考え方】

- (1) 感染源を絶つ
- (2) 感染防止の3つの基本
○ 身体的距離の確保 ○ マスクの着用 ○ 手洗い等の徹底
- (3) 3つの「密」（密閉空間、密集場所、密接場面）の回避
- (4) 安全な活動環境等の確保

<錬成会実施時の感染予防策について>

錬成会期日まで

1. 参加者（選手・指導者・競技役員）へのおお願い

【試合に関わる全ての者（大会役員、審判、指導者、引率者、選手）】

- ・ 競技中以外のマスク着用を徹底する。 ※競技中は「面マスク」を着用
- ・ こまめな手洗い、手指消毒を徹底する。
- ・ 3密（密閉・密集・密接）の場면을回避する。
- ・ 以下の事項に該当する場合は大会参加を見合わせる。

□大会2週間前より**毎日起床時と就寝時**に健康観察を行い、その間に体調がよくない場合が複数回、あるいは連続してあった場合

（例：発熱【37.5度以上】・ 咳咽頭痛・ 咳・ 嗅覚、味覚異常・ 強い倦怠感などの症状がある場合）

※ただし、医師の診察の判断により、問題なければ参加可

□大会当日体調がよくない場合

（例：発熱【37.5度以上】・ 咳咽頭痛・ 咳・ 嗅覚、味覚異常・ 強い倦怠感などの症状がある場合）

□同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

□過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

- ・ 来場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告する。

【各団体の引率者等及び選手】

- ・ 2週間分の体調を記録した体調記録表（別紙1）の記録を作成、健康管理を徹底する。（各団体における毎日の健康観察カード等を代用しても構わない）
- ・ 必要最低限の人数での参加とする。（登録選手、付添のみ）
- ・ 錬成会に参加する選手及び保護者に対し、参加に当たっての注意事項等を事前に説明し、同意書（別紙4）を提出させる。その際、錬成会申込期日までに定期健康診断の実施が行なわれていない団体の選手については、保護者の責任のもと健康上問題がないことを確認したうえで参加させる。
- ・ 錬成会中は、競技実施時を除いて（※競技中は「面マスク」を着用）、基本的にマスクを着用し、咳エチケットを徹底するよう指示する。（ただし、活動中や気候の状況等より、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すよう選手に指導する。）

【福井県剣道連盟】

- ・参加団体に対し大会の主旨、感染拡大予防ガイドラインを周知徹底する。
- ・選手、引率者等及び大会関係者に、マスクを準備させる。

2. 施設管理者へ確認

【福井県剣道連盟】

- ・各施設の使用制限、使用ルールについて
- ・手洗い場、トイレ等には石鹸があるか ← 手洗い石鹸、ペーパータオルを設置する。
- ・アルコール等の手指消毒剤を用意できるか ← 福井県剣道連盟で準備する。
- ・更衣室、待機場所のスペースが確保できるか ← 大会事務局で事前に割り振りを行う。
- ・換気が十分できるか ← 会場入口を常時開放。
- ・観客席の収容人数等の確認 ← 県立武道館コロナウイルス対応人数
剣道大 190人（観客席 450人）
剣道小 80人
剣道女子更衣室 8人
会議室1 31人
会議室2 50人
- ・錬成会後の会場消毒について ← 大会事務局で実施する。

3. その他

【各団体の引率者等及び選手】

- ・団体でまとまって会場へ移動する場合、バス等の車内が密集・密閉空間にならないよう運転手と連携し定期的に換気をしたり、1台に乗車する人数を減らしたりするなどの工夫をする。
- ・徒歩や車中を問わず、移動中はマスクを常時着用し、移動前後には必ず手洗いと手指の消毒、うがいを実施する。
- ・会場への往復時は極力立ち寄らず、飲食物を購入する際は短時間で行う。
- ・移動時には、乗り物等の窓を開けて換気し、会話は最小限とする。

錬成会当日の対応

1. 受付

【各団体の引率者及び選手】

- ・各団体集合時に引率者の責任において、選手の検温・体調確認を行う。
- ・引率者は選手の体調を確認し、大会当日受付時等に、団体同行者体調記録表（別紙2）の提出をする。

【福井県剣道連盟】

- ・団体同行者体調記録表（別紙2）に記載された者以外の来場者（大会役員等）に対し、来場者体調記録表（別紙3）に、必要事項を記入・提出を求める。
- ・福井県立武道館玄関前付近で、検温、消毒用アルコールによる手指消毒を行う。
- ・剣道大道場と剣道小道場入り口付近に手指消毒剤を設置し、手指消毒を徹底させる。
- ・発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は会場へ入場させない。
- ・マスクを持参していない人にマスクを配布し、着用してもらう。（予備マスクの準備）
- ・参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行う。
- ・受付を行うスタッフには、マスクを着用させる。

※当日に記入すると受付が混雑するため、事前に記入できる場所はしておいてもらう。

2. 競技全般

【試合に関わる全ての者（役員、審判、選手、付添）】

- ・ 競技中以外のマスク着用を徹底する。（※競技中は「面マスク」を着用）
- ・ こまめな手洗い手指消毒を徹底する。
- ・ 3密（密閉・密集・密接）を避ける工夫をする。

【各団体の責任者及び選手】

- ・ 責任者は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、解散時等、こまめに選手の体調不良の有無を確認する声かけを行うなど、集合時から解散時まで選手の健康観察を徹底する。
- ・ 責任者は、集合時、待機中、休憩中などにおいて、選手同士の間隔ができるだけ2メートル（最低1メートル）空くように指導する。
- ・ 錬成会中に選手等の体調不良を確認した場合、大会救護係や医療機関及び保護者等と連携し、当該生徒の体調を確認するとともに、安全に帰宅させるなどの対策を講じる。
- ・ 会場への入場は大会実施要項に定められた規定人数までとする。
※その他の者は入場できません。

【福井県剣道連盟】

- ・ 観客については入場制限を設け、錬成会実施要項に定める。
- ・ 開閉会式は極力簡素にする。人数制限を行う。
- ・ 試合会場待機場所について、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう、選手同士の間隔を取らせ、対面をさけ、会話は控えるよう指導する。
- ・ 対戦相手や審判等との握手、仲間と手をつないだり肩を組んだりして行う円陣、ハイタッチなどの実施を制限する。
- ・ 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回、確認する。
- ・ 申し合わせ事項を遵守させる。
- ・ チームで道具を共有する場合は、可能な限り試合前後に使用した道具の消毒を行う。
- ・ 必要に応じて参加者が遵守すべき事項の掲示・注意喚起する放送を行う。

<会場施設とも確認し、対応>

- ・ 審判、監督者会議等を実施する場合、人と人との間隔ができるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう、椅子の配置を広くするなどの工夫をする。
- ・ 会場内で人が密集しないよう、一度に会場に入れる人数や団体数等を制限するなどの工夫をする。
- ・ 1時間に2～3回程度、会場のドアや窓を開け換気を行うなどの工夫をする。その際、試合会場の窓等の開閉が困難な場合は、利用する施設と連携し、換気施設を適切に運転する。この場合においても、1時間に2～3回程度、会場の入口等を開け換気を行うなどの工夫をする。

【その他】申し合わせ事項

- ・熱中症対策として、各自での十分な水分準備。(給水器など、共有する物は使用しない)
- ・競技中は面マスク(鼻を覆い隠せるもの)およびマウスシールドを必ず着用し、飛沫の飛散防止に努める。
- ・競技中以外もマスク(もしくは面マスク)を着用する。
- ・試合の進行状況により試合をする選手待機場所、応援場所、試合がない団体の待機場所を決め、選手同士の交わりを避ける。
- ・アップについては、団体で登録選手のみが行う。
- ・福井県立武道館及びフロアの入場について

選手+監督+帯同審判員+保護者(付添)合わせて(最大13名まで)

※ 選手は7名までとする

試合の移動があまりないように試合順番を組む。

2階観覧席は団体ごとに控え場所を決め、密にならないようにする。試合のない選手・付添は2階観覧席で観戦・休養をとる。他団体の席への移動はしない。

(隣の席と必ず1席開けて着席する)

- ・朝の入館については、入館前に玄関付近で「非接触型体温計による検温」、「アルコール消毒液による手指消毒」を実施後、下足用ビニール袋(各自持参)に入れ入館する。混雑する状況が起きた場合は大会委員が指示をして入館するようにする。靴については各団体で管理をする。入館したら2階観覧席に密にならないように荷物を置く。2階通路には置かない。
- ・会場内では、決められた導線のみを通行する。
- ・必要以上に他人と接触しない。
- ・時間に余裕を持って行動する。
- ・応援は拍手のみとし、大きな声を発しないよう指導する。
- ・役員・審判員はマスクを着用することとする。(不織布マスク白色)
審判員の服装は、特に指定しない。審判旗は各自持参する。
- ・すべての参加者はこまめな手洗い手指消毒をする。
- ・共有する道具は可能な限り試合前後に消毒を行う。
(各試合場で実施)
- ・剣道具、竹刀、手拭い、タオル、その他剣道に関する用具は、共用しない。
- ・開閉会式はできるだけ簡素化して行う。閉会式は入賞者のみ整列し、表彰する。
各自の後始末は徹底して行い、水筒、タオル、小手、竹刀等忘れ物が無いように。